

Alexandre Gabriel Decamps

アレクサンドル＝ガブリエル・ドゥカン

(1803～1860)



作品名 藁葺き小屋

種類 パステル画

サイズ 15.1×26.6cm

略 歴

- 1803 パリに生まれ、幼少期をピカルディー地方の田舎で過ごす。
- 1818 歴史画家ブショとピュチョルに師事
- 1824 自然の写生を志す
- 1827 サロン初入選
- 1831 オリエンタリズムの画家としてサロンで活躍
- 1839 レジョン・ドヌール勲章を受章する
- 1840 フォンテーヌブローの森を訪れるようになる
- 1848 二月革命以降はサロンから遠ざかり、バルビゾン派の自然主義に関心を示す。シャイイに住んで、コロー、ユエ、ミレー、ルソー、バリーらと親交を結び、フォンテーヌブローの森に入って写生をし、特に狩りの情景を主題とした風景画を多く描いた
- 1855 第1回パリ万博美術館展で、アングルやドラクロワとともに回顧展が開催され、最優秀賞を受賞する。晩年はフォンテーヌブローに住む
- 1860 没